

大学に進学しないのは国家の損であると思い、私が微力ながら学資を出すので進学するように勧めたのです。そしてあちこちで講演講習して得たお金をまとめて送ったのです。

私は東京商大に入学するように入ったのですが、東京に出れば私にいつそう世話をかけるし、またいろいろ経費もかさむからと思ったのでしようか、地元の大阪商大に入学したのでした。二年生のときだったか、外交官試験に合格したのです。大阪商大始まって以来、外交官の試験に合格した者は一人もない、ことに二年在学中に合格したとって驚かれ、新聞にも載ったそうですが、学校では「もう君は学校に来る必要はない。卒業式のときに来たまえ」といわれたとのことでした。

卒業後、日本銀行などに勤めていたようでしたが、母校大阪商大に招かれて教鞭を取るようになり、やがて経済学博士となり、経済学部長などしていました。

あるとき、伊藤さんが「本代が二千円ほしい」というので、それではすぐつくってあげるといつてあちこちの学校で指導してもらおうようにして、二千円をつくったこともあります。選抜大会を京都で開くようになったときは、泊まりがけで応援に来たこともありました。